

高等学校 国語科学習指導案

指導者 古田 尚行

日時	平成28年10月15日(土) 第1限(9:30~10:20)
場所	第1研修室
学年・組	高等学校Ⅱ年5組 42人(男子22人,女子20人)
単元	存在の証明をめぐる―「忠度の都落ち『平家物語』」
目標	1. 人物や情景の描写をとらえ、古文の基本的な読み方を理解する。 2. 作品に語られた人物関係や心情を理解する。 3. 「自己」と「他者」についての認識を深める。

授業について

「忠度の都落ち」は多くの教科書に採録され、「木曾の最期」と並ぶ定番教材である。薩摩守忠度は歌の師である藤原俊成のもとへ行き、自らの和歌を託して都落ちしていく。決意を新たにして都落ちしていく忠度と涙ながらに彼を見送る俊成との対比された場面は読者の印象に残るものである。なお、古態としての延慶本『平家』では俊成は対面せずに門越しに忠度の話を聞いたとあるが、覚一本『平家』の語り手はそのようには語らずに師弟の情愛の物語を強調して再構成している。

忠度の「生涯の面目」は勅撰集への入集であった。このことはさらに深めていくと、忠度にとってこの世に生を受けた自らの存在の証明、つまり自分が生きているという証、記憶を他者に託していくことでもある。そしてそれを受け取る俊成という他者の存在が可能にしている。

生徒の自己肯定感が低いと言われる時代である。自己とは何かを絶えず問い続け／問われ続けながらも自己を模索し、その自己を他者に託していくことは容易ではない。しかし、生徒はそのような物語を、たとえば「少年の日の思い出」で「彼」(客)から「私」(主人)、「山月記」で「李徴」から「袁蓀」、「こころ」で「先生」から「私」という形で触れている。

本授業では「忠度の都落ち」等を参照しながら、自己と他者との関係性の問題を深め考えていく場を一つの「学び」の場として設定する。その時に指導者は学習者の思考をどのように広げ、つなげて、整理しながら教室での学びを深めていくのか、そしてそこでの学びをどのような形で教室を離れて実践していけるのか、そのことを考えてみたい。

評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
① 作品世界について、興味・関心を持って読もうとしている。	① 登場人物の関係を理解し、その心情をつかもうとしている。	① 難語句を調べ、その意味や用法を理解しようとしている。
② 作品世界の問題を今に引きつけて考えようとしている。	② 作品世界の「自己」と「他者」に考えを及ぼそうとしている。	② 古典世界における和歌の価値を理解しようとしている。

学習計画（全6時間）

次	学習活動	評価規準と方法
1	古語の意味，文法事項を調べる。「忠度の都落ち」を読み，忠度，俊成それぞれの心情や考え方を整理する。（4時間）	関・読・知 行動観察・ノート・発表
2	物語全体を踏まえ，忠度と俊成についての考えをまとめる。（1時間）	関・読・知 行動観察・ノート
3	発表・応答。「忠度の都落ち」に見られる「自己」と「他者」の問題を考え，社会の中に見られる「自己」と「他者」についての考えを深めていく。（1時間）【本時】	関・読・知 行動観察・ノート・発表資料・発表

本時の学習目標

1. 「忠度の都落ち」の中の「自己」と「他者」との問題を捉える。
2. 社会の中の「自己」と「他者」との関係性について問い深める。

本時の学習指導過程

学習活動	指導上の留意点	評価の観点と方法
1 物語の中の「自己」と「他者」について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 忠度について注目させる。 <ol style="list-style-type: none"> ① 忠度にとって和歌とは何か。 ② 忠度は満足したのか。 ・ 忠度の感想・評価の発表，応答。 ・ 俊成について注目させる（再度本文へ）。 <ol style="list-style-type: none"> ③ なぜ忠度は満足できたのか。 ④ なぜ俊成は勅撰集に入れたのか。 ⑤ 俊成は納得しているのか。 	<p>本文の記述から人物の心情を踏まえた表現を理解しているか。行動観察。</p> <p>人にわかりやすい発表を心がけているか。行動観察。</p>
2 社会の中の「自己」と「他者」について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会の中の「自己」と「他者」の関係の事例（自己と他者という関係が見られる例）を考えさせる（発表，応答）。 	<p>作品世界と社会との比較ができていないか。</p>
3 本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「あなた」にとっての「他者」，「他者」にとっての「あなた」とは何かを考えさせる。 	<p>自分の問題として捉えなおそうとしているか。</p>